

## 夢分析に関する近年の動向

名島潤慈・高岸幸弘\*・岡崎恵美子\*

### Current Trends in Dream Analysis

Junji NAJIMA, Yukihiro TAKAGISHI and Emiko OKAZAKI

(Received September 1, 1997)

The major aim of dreams seems to be a widening of awareness. Dreams offer comments, corrections, and contributions toward problem solving. Thereby they strengthen, coalesce, or balance the dreamers' (and/or therapists') waking views, and thus, they serve as an important vehicle to support psychological development. They also give evidence of a source within the dreamer that presents metaphors and symbols for the sake of potential psychological insight - a source which comments, corrects, and teaches. Hence the therapist dealing with clients' dreams in clinical practice must continue studying dreams with patience and persistence. After Freud and Jung's initial discoveries, specific studies of the dream flowed in a number of different directions, and an extensive literature on dreams has evolved. The purpose of the paper is to review the recently published papers and books on dreams. We focus specifically on: (1) techniques of dream analysis, (2) dreams in the context of the therapist-client relationship, (3) dreams at developmental stages, (4) complexes in dreams, and (5) dreams in relation to maternity.

**Key words :** Techniques of dream analysis, developmental stages, complex, maternity

#### I 本稿のねらい

夢分析の目的がクライアントと呼ばれる人たちの福祉的利益を増大することにあるのは言うまでもない。そのためには、夢に関するたえまない努力と研究が必要となる。しかし、夢の世界は広大であり、少しずつ前進していくしかない。夢を研究するということは、人間の心を研究することと同じである。夢は、人間の心の拡大鏡である。心の鋭敏な感知器でもある。

本稿では、夢分析に関する研究の中でもできるだけ最近のものに的を絞って問題点の整理をはかってみたい。もちろん、すべての領域を取り上げるのは不可能なので、少し恣意的になるかもしれないが、今回は夢分析の技法、セラピストクライアント関係と夢、発達段階と夢、夢の中のコンプレックス、母性と夢といった領域について述べてみたい。なお、夢のイメージを深く生きることによって人間性 (humanity)・全体性 (totality)・霊性 (spirituality) の回復を目指すドリームワーク (dream work) (Bosnak, 1986; Hillman, 1990; 藤見, 1997) や、身体感覚を重視するフォーカシング (focusing) を夢に適用したもの (Gendlin, 1986; 阿世賀, 1993; 三坂・村山, 1993) は今回の論評からは除外した。

---

\* 熊本大学大学院教育学研究科

## II 夢分析の技法

夢分析のやり方としては、従来から、Freud のいわゆる還元法と Jung の拡充法がよく知られているが、その後、いくつかのものが考案されている。以下、簡単に紹介する。

Freud 派の Langs (1988) は、日常生活のストレスに対する能動的反応としての夢が持つ無意識的な意味を認識するための「トリガー解読法」(the trigger decoding method) を開発している。夢ならびにこの方法についての Langs の仮説は次のようなものである。(1) 夢の図柄 (dream picture) は写像そのものではなく、変形されたイメージであり、カモフラージュされた図柄である。(2) 夢そのものは顕在夢 (manifest dream) であり、夢全体は夢イメージとそれについての連想の網、つまり「夢・連想網」(a dream/associational network) よりなる。(3) 夢はトリガー (引き金; Freud が「昼間の残滓」と呼んだものに相当)、つまり覚醒時における夢主の情動的諸経験によって引き起こされる。(4) われわれは、夢主の夢・連想網を通して、変換機能 (置き換えと偽装) の影響を取消し、顕在夢の背後にある無意識層に至ることができる (悪夢以外の多くの夢は、この変換による防衛によって、われわれの心をかき乱さない無害な夢となる)。(5) 夢・連想網のテーマを同定し、それを覚醒時のトリガー状況 (trigger situation) の脈絡の中に置いてみる。

一方、折衷派の立場を取る Delany (1991, 1993) は近年、夢解釈のための「夢面接法」(the dream interview method) を開発している。夢というものを、夢主の覚醒時の意識の外にある感情や思考、発想の表出であるとみなす Delany によれば、夢面接法の構成は次の 10 のステップから成る。(1) よい夢作業へと通ずる雰囲気を作り上げる。(2) 夢を語ってくれるよう夢主を誘い、夢主の夢に耳を傾ける。(3) 夢を図解し概観する。(4) 夢の中の感情を強調する。(5) 夢の状況・人物・物体・感情・行為という 5 つの要素についてのよい描写を引き出す。(6) 夢主が述べた描写をそのまま繰り返す。(7) 種々の橋渡しとなる質問 (bridging questions) を用いて覚醒時の生活に橋渡しする。(8) これまでの探究を要約する。(9) 夢と夢面接を振り返る。(10) 行為のための選択肢を考える。Delany のこの夢面接法は、非常に詳細かつさまざまな技術を用いるもので、夢分析を行う上で大いに参考になる。

Kohut が創始した自己心理学の立場を取る Fosshage (1997) は、「夢の構造化モデル」(organization model of dreams) を提唱している。これは、次のようなものである。(1) 夢は、精神作用の総合化への努力である。(2) 夢は、心理的構造の発達を促す。ここでは、学習と問題解決も含まれる。夢はまた、現在の心的布置と心的過程の維持・調節・修復に役立つ。(3) Freud が行ったような、夢の顕在内容と潜在内容という二分法は取らない。夢は、感情・隠喩・主題を通して、夢主の直接的な関心をじかに露出するものである。(4) 夢に働きかけるさいの技法上の原則としては、①夢中における夢主の体験 (夢体験) を共感的に傾聴する、②分析的な質問はまず、夢体験を完全なものにするためになされる、③夢イメージは、隠喩的内容と主題的内容において理解される、④夢体験は覚醒時の生活と連結される必要がある、⑤夢の解釈は、患者と分析家の双方によって作られる、⑥夢の内容を直ちに転移と関係づけないで、むしろ、夢の中に現れた関係性のパターンに注目する、⑦夢は、障害の種類に関係なく、いかなる患者の精神分析ないし精神分析的な心理療法においても有益である。

なお、名島 (1997ad) は、報告された夢に対するセラピストの介入を、一般的介入 (general intervention) と特殊的介入 (special intervention) の二つに分け、後者をさらに、(1) 夢の構成要素ないしプロットについてのレベル I・II の質問、(2) 夢自己と覚醒自己との対応性についての

質問, (3) 象徴化された感情についての質問という3つに分けている。(3)の象徴化された感情(symbolized feeling)というのはBonime(1962)の用語である。これは、夢主が実際に夢の中で体験する感情(experiential feeling)ではなくて、何か特定の夢イメージの中に象徴的な形で隠されている感情である。

ところで、上に述べたLangs, Delaneyらはすべて、夢についての夢主の連想を重視するという点では共通している。これは、Freud以来続いている伝統的な立場でもある。これに対して、最近Kramer(1993)は、夢主の自由連想の助けをまったく必要としない「夢翻訳法」(dream translation)を提唱している。この夢翻訳法の特徴は、次のようなものである。(1) 夢翻訳法の課題は、報告された顕在夢に対して、それに代わる首尾一貫したテキストを提供することである。(2) Freudが強調した夢の特性のうち、退行(regression)と圧縮(condensation)は容認する。(3) 夢のテキストを言葉の綾のようなもの、例えば隠喩(metaphor)とみなす。(4) いくつかの基本的パラダイムを採用する(例えば、夢の中に3人の人物が現れている場面はエディプス状況を示すものとみなすなど)。(5) 報告された夢についての夢翻訳者(dream translator)自身の連想や推論を重視する。ちなみに、夢翻訳法では、顕在的な夢テキストの中に存在していないものは翻訳できない、夢形成における逆転(reversal)の問題は扱えないなどの「限界」がある。

### III セラピスト-クライアント関係と夢

#### 1 セラピストについてクライアントが見る夢

面接においてクライアントがセラピストに報告する夢は、「語られる夢(対人的水準の夢)」である。この語られる夢は「コミュニケーションとしての夢」でもある。このような夢の中には、治療関係にまつわるものが少なくない。

セラピストについて見る夢に関しては、河合(1979)や田畑(1983, 1984)らの先行研究があるが、近年名島(1996a)は、治療関係にまつわる夢を、「セラピストの夢(dreams about the therapist)」と「治療状況の夢(dreams about the therapeutic situation)」という二つのものに大別し、前者をさらに、「セラピストそれ自身が現れる夢(dreams in which the therapist appears as himself)」と「セラピストらしき人物が現れる夢(dreams in which the figure like therapist appears)」に分けた。そして、計3つの事例を検討し、その結果、セラピストの夢ないし治療状況についてクライアントが見る夢は、(1) セラピストの行っている治療の方向の再確認、(2) 補足型同一視(Racker, 1968)に基づくセラピスト側の逆転移の様態、(3) セラピスト側の逆転移に起因する治療上の危機の様態を知らせてくれたことを見出している。

このような名島の結論は、セラピストについての夢を、「それまで明確につかめていなかった転移-逆転移の場の実相に働きかけることを促してくれる治療的な梃子という、稀にしか生じない可能点(unusually potent point)を提供する」ものとみなすKavanagh(1994)の主張と軌を一にしていよう。ともあれ、クライアントが見るセラピストの夢を、例えば、性愛化された転移(eroticized transference)が発現したといった具合に一方的に問題視するよりも、むしろ、治療上の転機として活用することが大切となろう。

#### 2 クライアントについてセラピストが見る夢

クライアントについてセラピストが見る夢(dreams of the therapist about the client)がどのよ

うな意義を有しているかについては、最近では、Myers(1987)、河合(1988ab)、Whitmont & Perera(1989)、Watson(1994)らが種々論じている。中でもMyersは、Myers自身が見た夢の自己分析を通して、患者についての夢を分析することは患者への逆転移反応を解消するための貴重な手助けになる、患者の心理力動についての重要な洞察が得られるなどと結論づけている。また、ユング派のWhitmont & Pereraは、クライアントについての夢は常に逆転移を意味するので、セラピストとしては、セラピストのどのようなコンプレックスないし元型的な問題がクライアントに投影されているかを見極めることが必要であることを強調している。

Watsonは、上述のMyersやWatson自身が見た夢を検討して、セラピストが見る夢は患者の力動性と対人関係的な事柄をよりよく理解することに役立つと述べ、彼はさらに、セラピストが見た夢を実際に患者に提示するという技法(the technique of actually presenting a dream to the patient)を提唱している。これの原形は既にJung(1917)が試みているものであるが、いつ、どのような時点で、どのようなクライアントに対してこの技法を用いればよいかということは、今後の重要な課題となる。

ちなみに、三村(1997)は、面接調査の形で、実際にセラピーを行っている臨床心理士や大学院生たちが見た計42の夢を採取して、それらの意義を検討した。その結果三村は、クライアントに関してセラピストが見る夢は、(1)クライアントーセラピスト関係についての洞察を促す、(2)クライアント理解を促す、(3)セラピストの自己洞察を深める、(4)スーパーヴィジョン的な機能を有するという4つの特徴があることを見出している。

このようにみえてくると、セラピストが見るクライアントについての夢が大変重要な意義を有していることがよく分かる。ただ、実際の臨床場面においては、セラピストがクライアントについての夢を見た場合、それがクライアントからの無意識的コミュニケーションをキャッチしたものなのか、それともセラピスト側の無意識的葛藤ないし欲動に起因する逆転移なのかが分かりにくいことが少なくない。これの有効な見分け方が今後の課題となるように思える。

#### IV 発達段階と夢

子どもの夢についてはFreud(1900)やJung(1987)以来さまざまな研究がなされているが、認知心理学の立場を取るFoulkesは共同研究者たちと共に、1960年代から現在まで、もっぱらREM期覚醒法(実験室で睡眠中の子どもの脳波や眼球運動をモニターしておき、REM期になったら素早く起こして、実験者が起こす直前にどのような夢を見ていたかを尋ねるやり方)によって子どもの夢を研究している。彼は、過去においてワイオミング大学の睡眠研究所(1968年から1973年までの縦断的研究)とアトランタのジョージア精神保健研究所(1984年の横断的研究)で行った二つの研究を総括して、発達早期の子どもの夢の発達は、(1)静止画的な夢イメージ(static dream imagery)(5歳ないし6歳)、(2)夢主が参加していない運動的ないし映画的な夢イメージ(kinetic or movie-like imagery, but without self-participation)(6歳から7歳までの間)、(3)夢主が能動的に参加している運動的な夢イメージ(kinetic imagery with active self-participation)(7歳以降)の三つに分けている(Foulkes, 1993)。そして、彼は、夢見における能動的自己表象(active self-representation in dreaming)が初めて広く報告されるのは8歳であり、この時期には、覚醒時における自己理解の質的変換(これは、能動的な役割を取る自分自身をイメージ化するという新しく発達した能力に依拠している)が生じているのではないかと述べている。

ところで、Foulkes たちによれば、幼い子どもたち (3, 4 歳から 5, 6 歳まで) が見る夢は動きのない、いわばスナップ写真のような静止的な夢ということになる。しかし、例えば Erickson (1941) は、生後 8 ヶ月の娘がある夜眠っている時に、覚醒時において実際に父親に遊んでもらっていた時の行動 (両足を伸ばしたり、両腕を胸の上で曲げたり、楽しそうに声を上げて笑うなど) を示したことから、この赤ん坊は「父親に遊んでもらっている夢」を見たのだと強く主張した。この場合、この赤ん坊は、静止的な夢ではなくて、むしろ自分が活動主体であるような映画的・動画的な夢を見ていた可能性が出てくるかもしれない。ただし、これについて麻生 (1996) は、Erickson が採取した 8 ヶ月の女の子は、自分の相手をしてくれる父親の笑顔という「スライド的な夢」を見て部分的に覚醒し、夢とうつつの狭間で (意識のもうろう状態の中で) その夢の父親を本物と錯覚して、その父親に現実に対応したのではないかと推察している。確かに、認知発達の水準からすれば、その 8 ヶ月の女の子が、自分が主人公である映画のような夢を見ていたとは考えにくいところがある。

もっとも、子どもの年齢が上がれば、静止画か動画かという問題は微妙となる。例えば、宮本 (1996) は、母親たちに頼んで 3 歳から 6 歳の子どもの夢を採取した。その中の 4 歳 10 ヶ月の女の子は、自宅で、「赤い海で自分が怪我をしていた。その後、海が青くなり、怪我が治っていた。しかし、また海が赤くなり、怪我をしていた。怪我をしたのは、右手の甲から手首あたりだった」という夢を見た。母親によれば、この女の子は夢の途中で起き、右手を痛そうに押さえながら泣いていたとのことである。Foulkes は 5, 6 歳までは静止画とするが、この場合、その女の子がもともと流れのある継時的な夢を見たのか、それとも、青い海・赤い海という二つの静止した場面を見て、覚醒した後でその子が二つの場面を連続させて母親に物語ったのか、これはどちらとも分かりにくいところである。

赤ん坊の夢について言えば、前述の麻生 (1996) は、「赤ん坊は夢を見ない」とする Foulkes たちの主張に異義を唱え、麻生自身が長期観察を行った自験例も含めて、彼が蒐集したさまざまな乳幼児の夢のエピソードから、次のことを推測している。(1) 0 歳や 1 歳代の赤ん坊は、現実に体験した出来事を夢の中で再演しているかのような夢を見る。ただし、夢を見る頻度はきわめて低い。[夢見の頻度が低いということに関しては、3-5 歳児についてであるが、Foulkes (1982) もまた、同様のことを指摘している。3-5 歳児の REM 覚醒の夢の報告がきわめて少ないことの主要な理由として、Foulkes は、彼らの REM 期には構造化された心的諸経験が欠けているのではないかと述べている。] (2) 赤ん坊の夢には寝言や身体活動といった目に見える行動が伴っている。

言うまでもなく、赤ん坊の場合には言語が未発達なため、彼らが夢を見ていたか否かは、彼らの行動や表情、泣き声といったものから推測せざるをえない。言葉による報告は、1 歳末か 2 歳にならないと無理であろう。他の発達段階に比べて赤ん坊では、睡眠中の REM 期の割合が格段に高いということはよく知られている。例えば、Hobson (1989) によれば、出生時の睡眠量 16 時間のうちレム睡眠は 8 時間と半分を占めており、8 ヶ月児では睡眠量 13 時間のうちレム睡眠は 4.3 時間である。しかしながら、REM 期が多量にあるということが即多くの夢を見ていたということにはならない。また、REM 期の存在が即夢見ということにはならない。REM 期はあくまでも夢見の準備状態である。大人でも、一晩に 4, 5 回ある REM 期のすべてにおいて夢を見ているわけではない。はたして赤ん坊は夢を見ているのかどうか、見ているとすればどのような形態の夢なのか、何ヶ月頃から夢を見ているのか—これらは今後の重要な課題であろう。

## V 夢の中のコンプレックス

complex という英語は、もともとラテン語の動詞の *complexor* から出ている。complexor は、抱きしめる、取り囲む、取り巻くといった意味である (Simpson ed, 1987)。精神分析的には、コンプレックスとは、強力な情動が伴った思考ないし関心の一群 (Freud, 1916-1917) を指す。

ところで、コンプレックスと言えば、Freud (1910) が命名したエディプスコンプレックスのことがよく知られている。Freud はエディプスコンプレックス (ならびにそれと関連した去勢コンプレックス) をコンプレックスの中の中核的なものとみなし、当初より強い関心を抱いていた。実際、Freud が 1900 年に出版した *The interpretation of dreams* には、Freud 自身のエディプスコンプレックスと関連の深い夢がいくつか記載されている (鑑, 1992ab, 1993 を参照)。ただ、Freud 自身は、コンプレックスそのものには理論的価値をあまり置かなかった。夢との関わりからすれば、Jung の方がより縁が深いであろう。

Jung は 20 世紀の初頭、彼が考案した言語連想検査 (word association test) におけるさまざまな乱れ (反応時間の遅延、異様な反応語、再生不全など) から、コンプレックスの存在を確証していった。Jung の被験者は正常者、ヒステリー、強迫神経症、テンカン、分裂病、犯罪者、アルコール中毒などであった。コンプレックスは初め、「情動が負荷されたコンプレックス」(affektbetonter Komplex, emotionally charged complex) (Jung & Riklin, 1904) とか「感情によって色づけられたコンプレックス」(gefühlbetonter Komplex, feeling-toned complex) (Jung & Riklin, 1904) などと呼ばれていたが、やがて、後者の言い方に統一されていった。例えば、1907 年に執筆された「早発性痴呆の心理」(Jung, 1907) という論文では、第 2 節のタイトルが「感情によって色づけられたコンプレックスと、それが心に及ぼす一般的作用」とうたわれている。

ところで Jung は、「コンプレックス理論の展望」(Jung, 1934) というスイス工科大学就任公開講演の中で、「夢の心理学は、いろいろなコンプレックスを抑制しようとする制止的な意識が存在していない時、いろいろなコンプレックスがいかに人格化された形で出現するかを、この上なく簡明に示してくれます」と述べている。

ユング派の河合 (1971) も、「コンプレックスの人格化を、われわれが如実に体験するのが、夢の体験である」とし、心因性抑うつ症に陥った、40 代の中年の、能力が高く真面目な男性社員の夢を取り上げている。この中年男性が見た夢の中には、以前に会社の金を横領して、会社をやめさせられた社員が出てきたのであるが、河合は、横領を働いた社員こそこの中年男性のコンプレックス (尊敬する社長から独立して、自分自身で会社を経営したいというひそかなる欲望) が人格化したものであるとみなしている。河合 (1981) はまた、それまで「よい子」であったが、高校 1 年生の時に登校拒否になったある男子生徒が見た夢を取り上げ、彼の夢の中に出てきた A (夢主の小学校時代の同級生で、いわゆる「やんちゃ坊主」であった人) は、彼の「やんちゃコンプレックス」とでも言うべきものの体現であるとしている。

このように、夢の中には、われわれの無意識の中にあるさまざまなコンプレックスが、他の人物の姿を借りて、時には動物の姿となって表出される。ただし、治療的な観点からみれば、夢の中にどのようなコンプレックスが出現しているかということだけに焦点を絞るのは、得策とは言えまい。治療者としてはむしろ、河合 (1981) が強調しているように、夢主 (クライアント) が、夢の中に人格化された形で出現しているコンプレックスと対話できるように援助していくことが大切となる。また、織田 (1981) は、「コンプレックス解消の必要条件となるものは、治療者によ

る病者のコンプレックスについての共感的な理解である」と述べているが、これも治療者として大切な視点であろう。

ここで、コンプレックスの人格化という問題からは少し話が逸れるが、近年、山(1991)は、強迫症状を持つ20歳の女子大学生に対して、まずJungの言語連想検査を行い、次に、コンプレックス指標をもとにしてコンプレックスに関わる刺激語を選出し、さらに、それらの刺激語に対して「連続連想」(山, 1986)を試みている。その結果、①無意識に対しての恐怖、②「善」と「悪」ないし「正しい」と「間違い」に二分された世界、③攻撃性をはじめとする感情表出の問題といった、合計6つのテーマが言語連想から引き出され、さらに、これらのテーマのいくつかは、クライアントが報告した夢の中にも出現したことが分かった。[言語連想検査の結果と夢内容とを対比させるやり方は、既にJung(1906)が試みているが、山の場合には彼女独自の連続連想が付加されている。]

また、高岸(1997)は、20代の男女4人の、普通に適応している被験者に対して、夢の構成要素そのものを刺激語とした「構成要素連想検査」を行い、その結果、構成要素連想検査は夢の中に潜在化しているさまざまなコンプレックスを抽出するのに有効であるという結論に到達している。山の研究が連続連想の方に重点を置いているのに比べると、高岸のそれは、夢の構成要素そのものを自由連想のための刺激語(出発点)としたところに大きな特色がある。既に述べたことではあるが、これらのやり方によって抽出された心理的テーマやコンプレックスをどのようにクライアントや夢主にフィードバックしたら治療的な活用が図れるのかということが、今後の重要な課題となろう。

## VI 母性と夢

母性(maternity)とは何だろうか。*Webster's New World Dictionary of the American Language*によると、母親性(motherhood)と母親らしさ(motherliness)の二つがある。前者は母親であるという状態を指し、後者は母親の特性ないし性質を指す。東野(1996)によれば、WHOの母性保健委員会では、「母性とは現に子どもを産み育てるもの(狭義の母性)のほかに、将来子どもを産み育てるべき存在および過去においてその役目を果たしたものをいう」としている。ここでは、女性のすべてが母性となる。

本節では、母性というものを、女性の妊娠・出産・育児に関わる生理機能という身体的側面と、それらにまつわる心理的な側面との、心身両面の性質としたい。このような母性は、夢の中ではどのように表現されるのであろうか。

### 1 妊娠に関する夢

(1) 受胎の夢： 受胎の夢(conception dream)というのは、女性が性行為によって受胎した前後に見る夢のことで、その夢の後の妊娠反応テストによって夢の妥当性が検証される。この受胎の夢についての組織だった検討はいまだなされていないようであるが、Van de Castle(1994)は、彼自身が集めた夢や他の研究者たちが集めた夢を数多く紹介している。彼によると、種から植物が急速に成長する、夢主のお腹から大きいたわわに実ったブドウの房が育つ、上がっていく大きな満月を大いなる慈しみの感情を抱きつつ見ていると、その大きな満月の中を小さな月が上がっていく、といった夢が出現する。このように、受胎の夢では、成長・発達・豊穡性・女性性を象

徴するイメージがよく見られる。もちろん、丈夫な赤ちゃんそのものを夢の中で見る場合もある。ちなみに、流産の場合には、それに先立って、血に関連した夢（例えば、浴槽の真っ赤な水を抜いてみると、底に赤ん坊が横たわっていたなど）や、赤ん坊がいなくなる夢が出現するとのことである。

(2) 妊娠期に見る夢： 1960年代から妊娠の夢 (pregnancy dream) を研究している Van de Castle (1994) は、「妊娠している女性の無意識の心は、生化学的な不均衡さ、組織の異常、子宮内環境の構造的欠陥といったものを監視し発見できるように思える」と述べている。実際のところ、280日以上にも及ぶ妊娠期間において、女性は急速な身体的変化と精神的な動揺を経験しながら、母親になるための準備を行う。このような妊娠の過程が夢の内容にさまざまな影響を与えるであろうということは、想像にかたくない。

鱸 (1979) は20歳代の初産の妊婦の夢を調査し、「若い3人の母親の284個の夢の中の出産に関係した夢には、一つとして楽しい夢、希望に満ちた明るい夢はなかった。それぞれ個性的ではあるが、妊娠や出産の不安や恐れを示しているものばかりであった」と述べている。また、初産婦のみでなく経産婦も調査対象にした武内 (1984) の研究によれば、①妊産婦の夢には不安や恐怖の夢が多い、②初産婦は経産婦よりも混乱の夢 (子どもが生まれてとまどう夢) が多い、③夢の中には喜びの夢も出現しているが、初産婦では昔の友人や家族との楽しい会話といった、時間的退行の中での楽しさが、一方、経産婦では子どもの性が期待通りでうれしいといった感情がみられる。

妊娠と夢に関する近年の研究としては、Maybruck (1986, 1989, 1990) のものがある。彼女は過去の研究者たちの結果をもふまえて、次のようなことを指摘している。それは、①妊婦の見る悪夢の中には、泥棒、侵入者、自然災害といった脅威的夢要素 (threatening dream elements) が見られる (妊娠に関する恐怖の反映)、②妊娠の初期から後期にかけて夢の中の動物のタイプが変わり、大きさも大きくなる (動物は胎児を表わす)、③夢の中の建造物 (妊婦の身体ないし子宮を表す) も次第に大きくなる、④水の夢が増える (羊水の増加に伴って)、⑤植物・花・庭園の夢が妊婦の見る夢で急増することがある (これらの夢イメージは繁殖力を象徴している)、⑥妊婦はしばしば自分たちの母親の夢を見る (母親としての自分自身の象徴、あるいは母親との間の未解決の葛藤の反映) といったものである。

このように見てくると、妊婦の夢は、不安や恐怖に満ちたものが多い。しかしながら、Maybruck (1990) が既に指摘しているように、夢のクラスや夢のセミナー、ワークショップなどで、彼女たちが夢を通して自己の不安 (ならびに不安の源泉) に直面していけば、妊娠に伴うストレスの減少や悪夢の減少が見られ、結果的にこれは、好ましい出産へと結びついていこう。看護学を教える Pass (1996) もまた、妊婦が専門家と睡眠夢を共有すること (sharing sleep dreams) の大切さを強調している。

### (3) 妊娠中絶後の夢

新宮 (1986) は、妊娠中絶後に心因性嘔下障害を起こした2人の女性患者の夢が、墜落・死 (苦痛)・摂食・登攀という共通の夢主題を反復することに注目し、夢主題の意味論的分析と統計的分析から夢テキストを構造化し、その意味を検討した。その結果、(中絶による) 喪失・喪の仕事・対象の再建という夢の意味を見出し、患者の嘔下障害も、喪の仕事の挫折の一様式であることを見出した。人工流産はたしかに過去の事件なのであるが、しかしこの事件は、身体の中に仕込まれた欲動組織の中に残存しており、それは無意識の言葉に翻訳されて残存していると、そう新宮は考察している。



Garfield (1990) によれば、中絶後の夢には暴力と破壊が見られ、しばしば壊された建物のイメージが出現する。ある女性は中絶して数日後に悪夢を見たが、その夢の中の、こじ開けられた車庫は子宮を、盗まれた車は破壊され遺棄された胎児を、気のふれたレスビアンたちのブルドーザーによってめちゃくちゃに引っ繰り返された庭土は彼女の女性性 (femininity) が脅かされたことを表していると Garfield は解釈している。

人工妊娠中絶後にさまざまな心理的ケアを必要とする女性は少なくないが、報告されている事例はきわめて少ない。それは、彼女たちの心理的ケアの場がないことや、彼女たち自身、中絶のことを他人に語りにくいといった理由によるものかもしれない。ともあれ、中絶による対象喪失感、自責感、後悔、女性性の毀損といった問題と取り組むための夢分析が十分に活かされるような場を作ることが今後の課題となろう。

## 2 月経に関する夢

女性にとって月経があるということは、母性が健康的に整っている証であると同時に、妊娠しなかったことを自覚させられることでもある。身体的な面から見れば、女性は、ホルモンレベルの大きな変化、それに伴う排卵、子宮内膜の破壊、体温の変化といったものが生起する月毎の月経周期の中で生きていけると言えよう。

Van de Castle (1994) によれば、彼は 1964 年に、約 50 人の看護学校 1 年生の生徒から 450 個以上の夢を集め、検討の結果、次のようなことを見出している。(1) 月経期に見る夢、つまり月経夢 (menstrual dream) のテーマとしては、血、赤色の家具、不完全の子ども、死、結婚や婚約、建物の中の部屋 (子宮を意味する) といったものが多い。報告された夢の内容から得る身体関心得点 (a somatic concern score for dreams) は、他の時期よりも月経期において高い。ちなみに、この身体関心得点は、月経に対して否定的態度を持つ女性群の方が肯定的態度を持つ女性群よりも高い。(2) 前排卵段階 (preovulatory phase) の夢で典型的なのは、夢主が活動的であり、男性の登場人物と関わりを持つといったものである。(3) 排卵日付近の夢では、大災害に関するものがある。これは、この時期、黄体形成ホルモンが大量に分泌されることと一致している。(4) 排卵後には、母なるものへの畏敬の念を感じさせるような夢、母親役割を認識させるような夢、世代間の橋渡しを示唆するような夢が見られる。(5) 月経周期 (menstrual cycle) のどの時期においても、女性的な夢主たち (feminine dreamers) (女性的なオリエンテーションを持つ女性たち) の見る夢と男性的な夢主たち (masculine dreamers) が見る夢との間には違いが見られる。つまり、前者では、母親や親戚が登場する、さまざまな登場人物とより友好的な交流を行う、身体関心得点は低い、といった特徴がある。

この研究は少し古いものであるが、これに匹敵するようなものはその後なされていないようである。

## 3 母子関係と夢

母親の見た夢を取り上げた事例研究は、少数ではあるがいくつかある。例えば、吉田 (1984) は、チックの子ども (小学校 4 年生の男子) を持つ母親、下山 (1987) は、家庭内暴力をふるう 15 歳の少年の母親、織田 (1991) は、抑うつ気分・対人緊張・円形脱毛症に悩む 30 代の農家の主婦 (9 歳の長女と 5 歳の長女の母親) に対して、それぞれ夢を媒介とした面接を行っている。これらの母親は夢分析の過程で母性性が成熟し、それに伴って子どもとの関係も改善している。

これらの母親に共通しているのは、自らの母親と望ましい母子関係を経験していないこと、夫

を初めとする男性を肯定的に受け入れていないこと、母親としてのアイデンティティが十分に形成されていないことである。おそらく、このような問題を取り扱わなければならない時に、夢分析は有益となるのではないかと思える。

なお、上に述べた母親たちの子どもは幼児と学童であったが、実際の母子関係は出産直後から始まる。つまり、産褥期や新生児期においても、母親として乗り越えていかなければならない課題は当然存在する。例えば、胎児が新生児として母体から分離してしまったことを受け入れることとか、母親自身の他のいろいろな欲望を抑えてひたすら育児に専念しなければならないことなど。こういった事柄を乗り越えるためのバックアップとしての夢の共有は、その後の母子関係によい影響をもたらすと思える。さらには、マタニティブルーと呼ばれる出産後の抑うつが長期化することを防ぐことにも役立つのではないかと思える。

## VII おわりに

本稿では、できるだけ最近の研究に焦点をあてて、夢分析に関するいくつかの事柄を紹介・論評した。紙数の関係で、ここにとりあげられなかったものも少なくない。トピックのみ紹介すると、それらは次のようなものである。(1) 地震、大火災、事故、戦争、レイプといった過去の心的外傷体験によって生起する外傷夢 (traumatic dream) ないし夢の中の外傷的要素 (traumatic element) の問題 (例えば, Garfield, 1987; Wayne, 1989; Smith, 1990; 杉村, 1996; Barrett ed., 1996; 岩田, 1997), (2) 外傷夢もその中に含まれる頻回夢 (recurrent dream, repetitive dream) の問題 (Zadra, 1996; Hull & Lane, 1996; 白石, 1997), (3) 留学や移民などによる異なる文化圏への移動という環境移行が夢に与える影響 (荒木, 1996), (4) 夢分析の適応対象, それも特に分裂病者への適応可能性の問題 (鑑, 1984; Oremland, 1987; 小寺, 1994), (5) 夢の持つ心理・歴史的側面が特に実存的な次元で展開されやすい宗教者の夢の意義の問題 (Miyuki, 1980; 河合, 1987; 名島, 1993, 1996b, 1997bc), (6) 自分が夢を見ているという意識を持ちつつ見ている夢, つまり明晰夢 (lucid dream) の意義の問題 (LaBerge, 1988; Gackenbach, 1990; 斎藤, 1992; Van de Castle, 1994), (7) 近年急速に普及しはじめた電子メールによる書記的方法を用いた夢分析の可能性の問題 (岡嶋, 1997) などである。これらについては別の機会に論じてみたい。

## 引用文献

- 荒木裕子 1996 日本からアメリカへの環境移行が夢に与える影響 平成7年度熊本大学教育学部心理学科卒業論文  
 阿世賀浩一郎 1993 夢フォーカシング技法の面接場面への適用に際しての幾つかの実用的示唆 人間性心理学研究, 11:2, 83-94.  
 麻生 武 1996 子どもと夢 岩波書店  
 Barrett, D. (Ed.) 1996 Trauma and dreams. Cambridge: Harvard University Press.  
 Bonime, W. 1962 The Clinical use of dreams. New York: Basic Books. (鑑幹八郎・一丸藤太郎・山本力訳 1987 夢の臨床的利用 誠信書房)  
 Bosnak, R. 1986 Kleine droomcursus. Rotterdam: Lemniscaat. (渡辺寛美訳 夢体験を深める 1992 ドリームワークの方法 創元社)

- Delaney, G. 1991 Breakthrough dreaming. New York: Bantam Books.
- Delaney, G. 1993 The dream interview. In G. Delaney (Ed.), *New directions in dream interpretation*. Albany: State University of New York Press.
- Erickson, M. H. 1941 On the possible occurrence of a dream in an eight-month-old infant. *The Psychoanalytic Quarterly*, 10, 382-384.
- Fosshage, J. L. 1997 The organizing functions of dream mentation. *Contemporary Psychoanalysis*, 33:3, 429-458.
- Foulkes, D. 1982 *Children's dreams: Longitudinal studies*. New York: Wiley-Interscience.
- Foulkes, D. 1993 *Children's dreaming*. C. Cavallero & D. Foulkes (Eds.), *Dreaming as cognition*. New York: Harvester Wheatsheaf. Pp. 114-132.
- Freud, S. 1900 The interpretation of dreams. SE, 4 & 5.
- Freud, S. 1910 A special type of choice of object made by men. SE, 11, 165-175.
- Freud, S. 1916-1917 Introductory lectures on Psycho-Analysis. SE, 14 & 15.
- 藤見幸雄 1997 トランスパーソナルなドリーム・ワーク プロセス指向心理学を中心に 妙木浩之編 現代のエスプリ 別冊 夢の分析 至文堂 Pp. 187-199.
- Gackenbach, J. I. 1990 Women and meditators as gifted lucid dreamers. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork: Decoding the language of the night*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher. Pp. 244-251.
- Garfield, P. 1987 Nightmares in the sexually abused female teenager. *Psychiatric Journal of the University of Ottawa*, 12:2, 93-97.
- Garfield, P. 1990 Women's body images revealed in dreams. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork: Decoding the language of the night*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher. Pp. 152-160.
- Gendlin, E. T. 1986 *Let your body interpret your dreams*. Wilmette: Chiron Publications. (村山正治訳 1988 夢とフォーカシング 福村出版)
- 東野妙子 1996 母性の概念と母性看護の意義・役割 村本淳子・森明子編著 母性看護学概論 医歯薬出版 Pp. 1-16.
- Hillman, D. J. 1990 The emergence of the grassroots dreamwork movement. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork: Decoding the language of the night*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher.
- Hobson, J. A. 1989 *Sleep*. New York: W. H. Freeman. (井上昌次郎・河野栄子訳 1991 眠りと夢 東京化学同人)
- Hull, J. W. & Lane, R. C. 1996 Repetitive dreams and the central masturbation fantasy. *Psychoanalytic Review*, 83:5, 673-684.
- 岩田八世子 1997 心的外傷体験の臨床心理学的研究 平成8年度熊本大学教育学部心理学科卒業論文
- Jung, C. G. 1906 Association, dream, and hysterical symptom. CW, 2, 353-407.
- Jung, C. G. 1907 The psychology of dementia praecox. CW, 3, 3-151.
- Jung, C. G. 1917 On the psychology of the unconscious. CW, 7, 1-119.
- Jung, C. G. 1934 A review of the complex theory. CW, 8, 92-104.
- Jung, C. G. 1987 *Kinderträume*. Herausgegeben von Lorenz Jung und Maria Meyer-Grass. Olten: Walter-Verlag. (氏原寛監訳 1992 子どもの夢 I・II 人文書院)
- Jung, C. G. & Riklin, F. 1904 The associations of normal subjects. CW, 2, 3-196.
- Kavanagh, G. 1994 The patient's dreams of the analyst. *Contemporary Psychoanalysis*, 30:3, 500-509.
- 河合隼雄 1971 *コンプレックス* 岩波新書
- 河合隼雄 1979 夢の中の治療者像 季刊精神療法, 5:3, 11-16.
- 河合隼雄 1981 夢とコンプレックス サイコロジー, 15, 22-25.
- 河合隼雄 1987 明恵 夢を生きる 京都松柏社
- 河合隼雄 1988a 夢の中のクライアント像 (I) 山中康裕・斎藤久美子編 臨床的知の探究 上 創元社 Pp. 3-19.
- 河合隼雄 1988b 夢の中のクライアント像 (II) 山中康裕・斎藤久美子編 臨床的知の探究 下 創元社 Pp. 3-20.
- 小寺隆史 1994 ある分裂病女性の面接と夢分析の過程 日本心理臨床学会第13回大会発表論文集, 126-127.
- Kramer, M. 1993 Dream translation: an approach to understanding dreams. In G. Delaney (Ed.), *New*

- directions in dream interpretation. New York: State University of New York. Pp. 155-194.
- LaBerge, S. 1988 Induction of lucid dreams including the use of the dream. *Lucidity Letter*, 7:2, 15-21.
- Langs, R. 1988 *Decoding your dreams: A revolutionary technique for understanding your dreams*. New York: Ballantine Books.
- Maybruck, P. 1986 An exploratory study of the dreams of pregnant women. *Dissertation Abstracts International*, 86-05, 318.
- Maybruck, P. 1989 *Pregnancy and dreams*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher.
- Maybruck, P. 1990 *Pregnancy and dreams*. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork: Decoding the language of the night*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher. Pp. 143-151.
- 三村成美 1997 クライアントに関してセラピストが見る夢の意義 熊本大学大学院教育学研究科 平成8年度学位論文抄録集, 37-40.
- 三坂友子・村山正治 1993 「謎の主題役」に注目した夢 focusing の手法とその有効性に関する考察 九州大学教育学部紀要, 38:2, 103-112.
- 宮本美保 1996 幼児期の夢 平成7年度熊本大学教育学部心理学科卒業論文
- Miyuki, M. 1980 A Jungian approach to the pure land practice of nien-fo. *Journal of Analytical Psychology*, 25:3, 265-274.
- Myers, W. A. 1987 Work on countertransference facilitated by self-analysis of the analyst's dreams. A. Rothstein (Ed.), *The interpretations of dreams in clinical work*. New York: International Universities Press. Pp. 37-46.
- 名島潤慈 1993 親鸞の夢 六角堂の夢告の検討 日本心理臨床学会第12回大会発表論文集, 320-301.
- 名島潤慈 1996a 治療者ないし治療状況についてクライアントが見る夢の意義 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, 45, 283-292.
- 名島潤慈 1996b 親鸞の夢 康元2年夢告和讃の検討 心理臨床学研究, 14:1, 1-9.
- 名島潤慈 1997a 精神分析的な心理療法における夢分析の技法 精神分析研究, 41:1, 1-11.
- 名島潤慈 1997b 法然の夢 二祖対面の夢の検討 心理臨床学研究, 15:1, 66-76.
- 名島潤慈 1997c 善導の夢 宗教的同一性の確立 第44回日本病跡学会総会抄録集, 18.
- 名島潤慈 1997d 夢分析におけるレベルIIの介入の意義 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, 46, 313-328
- 織田尚生 1981 コンプレックスの解消 サイコロジー, 15, 52-59.
- 織田尚生 1991 深層心理学 改訂版 放送大学教育振興会
- 岡嶋美代 1997 成人期女性の夢分析の事例研究-電子メールによる書記的方法を用いて- 平成8年度熊本大学教育学部心理学教室研究生研究報告
- Oremland, J. D. 1987 *Dreams in the borderline and schizophrenic personality*. In A. Rothstein (Ed.), *The interpretations of dreams in clinical work*. Madison: International Universities Press. Pp. 105-123.
- Pass, C. M. 1996 *Sleep dreams of women in the childbearing years: a review of research*. *Holistic Nursing Practice*, 10:4, 12-19.
- Racker, H. 1968 *Transference and countertransference*. London: Hogarth Press.
- 斎藤清二 1992 実体験される夢-意識と無意識の交流形態- ヘルメス心理療法研究, 1, 3-12.
- 下山晴彦 1987 家庭内暴力事例の母親面接-母親の夢・少年の暴力- 日本心理臨床学会編集委員会編 心理臨床ケース研究5 誠信書房 Pp. 147-165.
- 新宮一成 1986 夢テキストの構成-人工妊娠中絶後の心因性嘔下障害(「いざなみ症候群」)の精神療法から- 臨床精神病理, 7:2, 127-145.
- 白石久美 1997 頻回夢の臨床心理学的研究 平成8年度熊本大学教育学部心理学科卒業論文
- Simpson, D. P. (Ed.) 1987 *Cassell's Latin and English dictionary*. New York: Macmillan Publishing Company.
- Smith, R. C. 1990 *Traumatic dreams as an early warning of health problems*. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork: Decoding the language of the night*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher. Pp. 224-232.
- 杉村省吾 1996 PTSD(心的外傷後ストレス障害)とメンタルケア-臨床心理士たちの阪神大震災- 阪神淡路大震災の復興に関する人間関係学的研究 論集(1) 心理学的アプローチ 武庫川女子大学文学部人間関係学科発行 Pp. 6-22.
- 田畑 治 1983 心理治療過程に現れた治療者像とその機能(1) ある重症対人恐怖症者の夢分析を通し

- て 名古屋大学教育学部紀要, 教育心理学科, 30, 99-119.
- 田畑 治 1984 心理治療過程に現れた治療者像とその機能 (II) 母性喪失体験をもつ男性・女性クライエントの夢分析を通して 名古屋大学教育学部紀要, 教育心理学科, 30, 99-119.
- 高岸幸弘 1997 コンプレックスと夢 平成8年度熊本大学教育学部心理学科卒業論文
- 武内珠美 1984 妊産婦の夢に関する研究-夢に表された情動と夢内容について- 広島大学大学院教育学研究科博士課程論文集, 10, 139-145.
- 鑑幹八郎 1979 夢分析の実際 心の世界の探究 創元社
- 鑑幹八郎 1984 夢解釈の技法とその発展 精神分析研究, 28:2, 13-19.
- 鑑幹八郎 1992a フロイトのエディプス・コンプレックス 「目を閉じる夢」 マインド・トゥデイ, 8, 68-69.
- 鑑幹八郎 1992b フロイトの父への思い 「父の演説の夢」 マインド・トゥデイ, 9, 78-79.
- 鑑幹八郎 1993 フロイトが生涯をかけてこだわったテーマ 「トゥーン伯爵の夢」 マインド・トゥデイ, 10, 60-61.
- Van de Castle, R. 1994 *Our dreaming mind*. New York: Ballantine Books.
- Watson, R. I. 1994 The clinical use of the analyst's dreams of the patient. *Contemporary Psychoanalysis*, 30:3, 510-521.
- Wayne, A. M. 1989 The traumatic element in the typical dream of feeling embarrassed at being naked. *Journal of the American Psychoanalytic Association*, 37, 117-130.
- Whitmont, E. C. & Perera, S. B. 1989 *Dreams: A portal to the source*. New York: Routledge.
- 山 愛美 1986 連続連想にみられる反応パターンの特徴 心理学研究, 57:5, 287-292.
- 山 愛美 1991 強迫症状に苦しむ女子大学生の連想と夢 成安女子短期大学紀要, 29, 141-150.
- 吉田耕治 1984 チックの子どもを持つ母親の夢分析 季刊精神療法, 10:1, 4-15.
- Zadra, A. L. 1996 Recurrent dreams: Their relation to life events. In D. Barrett (Ed.), *Trauma and dreams*. Cambridge: Harvard University Press. Pp. 231-247.